

資料1 分析結果（場内浸透水）

場内浸透水												
調査地点	揚水ピット				年間平均値	No. 3揚水井戸				年間平均値		
採取日	R1. 6. 25					R1. 6. 25						
現場測定項目	浸透水	浸透水	浸透水	浸透水		浸透水	浸透水	浸透水	浸透水			
気温（℃）	27. 0					29. 0						
水温（℃）	24. 2					30. 9						
採水水深（m）（GLより）	-					-						
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	7. 4				7. 4	7. 4				7. 4	-	-
BOD (mg/L)	7. 7				7. 7	14				14	20mg/L	-
COD (mg/L)	14				14	20				20	40mg/L	-
SS (mg/L)	100				100	8. 7				8. 7	-	-
EC (mS/m)	170				170	150				150	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003				0. 0003	< 0. 0003				0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	0. 007				0. 007	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 29				0. 29	0. 48				0. 48	-	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	0. 9				0. 9	1. 0				1. 0	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0. 0005				< 0. 0005	< 0. 0005				< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	< 0. 004				0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	-	-
トランス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002				0. 0002	< 0. 0002				0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジオキサン (mg/L)	0. 012				0. 012	0. 021				0. 021	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	3. 9				3. 9	1. 3				1. 3	-	-
マンガン (mg/L)	0. 47				0. 47	0. 44				0. 44	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	0. 03				0. 03	0. 04				0. 04	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	0. 42				0. 42	0. 41				0. 41	-	-
アンモニア性窒素 (mg/L)	1. 71				1. 71	-				-	-	-
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	4. 07				4. 07	-				-	-	10mg/L
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 15				0. 15	0. 14				0. 14	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロベンゾ[ghi]ペリレン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料2 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その1]）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	H24-8 (2)					H26-S2 (2)						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
気温 (°C)	26.0					27.5						
水温 (°C)	17.4					18.9						
採水水深 (m) (GLより)	4.56					10.25						
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6.7				6.7	6.9				6.9	-	-
BOD (mg/L)	-				-	2.1				2.1	20mg/L	-
COD (mg/L)	-				-	11				11	40mg/L	-
SS (mg/L)	-				-	2.1				2.1	-	-
EC (mS/m)	17				17	140				140	-	-
カドミウム (mg/L)	-				-	< 0.0003				0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	-				-	< 0.005				0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	-				-	0.21				0.21	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	-				-	1.2				1.2	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	-				-	< 0.005				0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	-				-	< 0.0005				0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	-				-	< 0.0005				< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	-				-	< 0.001				0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	-				-	< 0.0005				0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-				-	< 0.002				0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-				-	< 0.004				0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-				-	< 0.002				0.002	-	-
トランス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	-				-	< 0.002				0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	-				-	< 0.001				0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	-				-	< 0.0002				0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジ'オキサ (mg/L)	-				-	0.040				0.040	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	-				-	0.54				0.54	-	-
マンガン (mg/L)	-				-	3.5				3.5	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	-				-	0.02				0.02	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	-				-	2.6				2.6	-	-
ダイオキシン類 (Dg-TEQ/L)	-				-	0.021				0.021	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロ'ベン'ジ'オキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料3 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その2]）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	H24-2(2)					H24-4(2)						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
気温 (°C)	22. 5					24. 0						
水温 (°C)	16. 5					16. 1						
採水水深 (m) (GLより)	14. 95					6. 07						
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の汚 透 水 の 基 準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6. 1				6. 1	5. 4				5. 4	—	—
BOD (mg/L)	1. 3				1. 3	0. 7				0. 7	20mg/L	—
COD (mg/L)	3. 3				3. 3	< 0. 5				0. 5	40mg/L	—
SS (mg/L)	< 1. 0				1. 0	4. 4				4. 4	—	—
EC (mS/m)	43				43	4. 2				4. 2	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003				0. 0003	< 0. 0003				0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 09				0. 09	< 0. 08				0. 08	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	0. 2				0. 2	< 0. 1				0. 1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0. 0005				< 0. 0005	< 0. 0005				< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	< 0. 004				0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	0. 0002				0. 0002	< 0. 0002				0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジ'オキサン (mg/L)	0. 012				0. 012	< 0. 005				0. 005	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	0. 10				0. 10	0. 17				0. 17	—	—
マンガン (mg/L)	0. 45				0. 45	0. 02				0. 02	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	< 0. 01				0. 01	< 0. 01				0. 01	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	0. 35				0. 35	< 0. 01				0. 01	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 021				0. 021	0. 027				0. 027	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロベンジ'ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料4 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その3]）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	C-7					C-8						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25 R1. 7. 4				年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
気温 (°C)	27. 0					27. 0						
水温 (°C)	19. 8					19. 6						
採水水深 (m) (GLより)	4. 25					7. 10						
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	5. 9				5. 9	5. 9				5. 9	—	—
BOD (mg/L)	1. 0				1. 0	0. 8				0. 8	20mg/L	—
COD (mg/L)	5. 0				5. 0	0. 8				0. 8	40mg/L	—
SS (mg/L)	63				63	2. 0				2. 0	—	—
EC (mS/m)	87				87	23				23	—	—
カドミウム (mg/L)	0. 0004				0. 0004	< 0. 0003				0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0. 08				0. 08	< 0. 08				0. 08	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	0. 3				0. 3	0. 2				0. 2	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0. 0005				< 0. 0005	< 0. 0005				< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	< 0. 004				0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002				0. 0002	< 0. 0002				0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジキサン (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	4. 4				4. 4	0. 18				0. 18	—	—
マンガン (mg/L)	5. 5				5. 5	1. 5				1. 5	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0. 59				0. 59	0. 01				0. 01	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	4. 9				4. 9	1. 3				1. 3	—	—
全窒素 (mg/L)	1. 20				1. 20	2. 33				2. 33	—	—
全りん (mg/L)	< 0. 05				0. 05	< 0. 05				0. 05	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 034				0. 034	0. 027				0. 027	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1 pg=1,000,000,000分の1 mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロベンゾ「ダイキシン」)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料5 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その4]、[Ks2層、その1]）

調査地点	K s 3 層 地 下 水					K s 2 層 地 下 水					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
	C-9					H24-7						
採取日	R1. 7. 10				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1			
気温 (°C)	25. 0					20. 0						
水温 (°C)	18. 9					21. 6						
採水水深 (m) (GLより)	3. 12					10. 12						
分 析 結 果					分 析 結 果							
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
p H	6. 6				6. 6	6. 3				6. 3	—	—
B O D (mg/L)	2. 4				2. 4	0. 8				0. 8	20mg/L	—
C O D (mg/L)	7. 8				7. 8	2. 9				2. 9	40mg/L	—
S S (mg/L)	57				57	7. 2				7. 2	—	—
E C (mS/m)	62				62	8. 1				8. 1	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003				0. 0003	< 0. 0003				0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	0. 019				0. 019	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 12				0. 12	0. 08				0. 08	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	0. 2				0. 2	< 0. 1				0. 1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
P C B (mg/L)	< 0. 0005				< 0. 0005	< 0. 0005				< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	< 0. 004				0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002				0. 0002	< 0. 0002				0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	12				12	5. 5				5. 5	—	—
マンガン (mg/L)	2. 3				2. 3	0. 71				0. 71	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	5. 3				5. 3	4. 7				4. 7	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	2. 1				2. 1	0. 64				0. 64	—	—
全窒素 (mg/L)	1. 78				1. 78	—				—	—	—
全りん (mg/L)	< 0. 05				0. 05	—				—	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	—				—	0. 042				0. 042	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ p g : mgの千倍分の1 (1 p g=1, 000, 000, 000分の1 m g)

※ T E Q : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(トリクロロベンゾ「ダイキシン」)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0. 45 μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。p H、B O D、C O D、S S、E C、鉄、マンガンは参考値。なお、P C Bの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料6 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その2]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	H24-6 (2)					H26-S2						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	28. 5					23. 5						
水温 (°C)	20. 6					19. 6						
採水水深 (m) (GLより)	9. 75					18. 90						
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	5. 4				5. 4	7. 1				7. 1	—	—
BOD (mg/L)	1. 6				1. 6	1. 0				1. 0	20mg/L	—
COD (mg/L)	< 0. 5				0. 5	2. 4				2. 4	40mg/L	—
SS (mg/L)	6. 6				6. 6	< 1. 0				1. 0	—	—
EC (mS/m)	8. 4				8. 4	25				25	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003				0. 0003	< 0. 0003				0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	0. 027				0. 027	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0. 08				0. 08	0. 18				0. 18	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0. 1				0. 1	< 0. 1				0. 1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0. 0005				< 0. 0005	< 0. 0005				< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	< 0. 004				0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002				0. 0002	< 0. 0002				0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジオキサン (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	0. 10				0. 10	0. 78				0. 78	—	—
マンガン (mg/L)	0. 07				0. 07	0. 59				0. 59	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0. 09				0. 09	0. 49				0. 49	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	0. 06				0. 06	0. 55				0. 55	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 028				0. 028	0. 026				0. 026	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[ghi]ペリレン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料7 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その3]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	No. 1					No. 3-1						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	27. 0					23. 5						
水温 (°C)	21. 9					19. 3						
採水水深 (m) (GLより)	14. 98					13. 70						
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の汚 透 水 の 基 準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
p H	6. 6				6. 6	6. 8				6. 8	—	—
B O D (mg/L)	1. 5				1. 5	1. 0				1. 0	20mg/L	—
C O D (mg/L)	9. 5				9. 5	6. 9				6. 9	40mg/L	—
S S (mg/L)	57				57	19				19	—	—
E C (mS/m)	110				110	160				160	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003				0. 0003	< 0. 0003				0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	0. 028				0. 028	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 13				0. 13	0. 26				0. 26	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	0. 7				0. 7	0. 5				0. 5	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
P C B (mg/L)	< 0. 0005				< 0. 0005	< 0. 0005				< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	< 0. 004				0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	0. 0006				0. 0006	< 0. 0002				0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジ'オキサ (mg/L)	0. 022				0. 022	0. 008				0. 008	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	25				25	18				18	—	—
マンガン (mg/L)	2. 9				2. 9	3. 1				3. 1	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0. 17				0. 17	8. 6				8. 6	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	2. 9				2. 9	2. 8				2. 8	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 060				0. 060	0. 024				0. 024	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ p g : mgの十億分の1 (1 pg=1, 000, 000, 000分の1 mg)

※ T E Q : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロジ'ベン'ゲイテチン)に換算した数値。

※ 採水方法：井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質（水温、pH、電気伝導度等）が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法：試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0. 45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値：環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。p H、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料8 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その4]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	H24-2					H24-4						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	22. 5					21. 0						
水温 (°C)	17. 6					17. 9						
採水水深 (m) (GLより)	25. 37					19. 50						
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
p H	6. 5				6. 5	6. 9				6. 9	—	—
B O D (mg/L)	1. 2				1. 2	1. 9				1. 9	20mg/L	—
C O D (mg/L)	5. 0				5. 0	7. 5				7. 5	40mg/L	—
S S (mg/L)	1. 9				1. 9	3. 3				3. 3	—	—
E C (mS/m)	92				92	120				120	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003				0. 0003	< 0. 0003				0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 10				0. 10	0. 10				0. 10	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	0. 6				0. 6	0. 7				0. 7	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
P C B (mg/L)	< 0. 0005				< 0. 0005	< 0. 0005				< 0. 0005	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005				0. 0005	< 0. 0005				0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	< 0. 004				0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	< 0. 002				0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001				0. 001	< 0. 001				0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002				0. 0002	< 0. 0002				0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジ'オキシベンゼン (mg/L)	0. 020				0. 020	0. 006				0. 006	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	0. 51				0. 51	0. 78				0. 78	—	—
マンガン (mg/L)	0. 29				0. 29	7. 6				7. 6	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0. 43				0. 43	0. 03				0. 03	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	0. 26				0. 26	6. 6				6. 6	—	—
ダイオキシン類 (Pg-TEQ/L)	0. 021				0. 021	0. 021				0. 021	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ p g : mgの十億分の1 (1 pg=1, 000, 000, 000分の1 mg)

※ T E Q : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロジベンゾ-p-ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0. 45 μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。p H、B O D、C O D、S S、E C、鉄、マンガンは参考値。なお、P C Bの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料9 分析結果（周辺地下水[Ks2+Ks3層最下流地下水]、地下水確認調査[Ks2層、その1]）

調査地点	K s 2 + K s 3 層最下流地下水					地下水確認調査						
	K-1					No. 1-1						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3		Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1			
気温 (°C)	30.0					25.0						
水温 (°C)	15.7					17.3						
採水水深 (m) (GLより)	-					14.50						
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の汚染水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	5.7				5.7	6.5				6.5	-	-
BOD (mg/L)	0.9				0.9	1.0				1.0	20mg/L	-
COD (mg/L)	6.7				6.7	1.3				1.3	40mg/L	-
SS (mg/L)	8.3				8.3	< 1.0				1.0	-	-
EC (mS/m)	67				67	61				61	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003				0.0003	< 0.0003				0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005				0.005	< 0.005				0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08				0.08	< 0.08				0.08	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.6				0.6	0.1				0.1	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005				0.005	< 0.005				0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005				0.0005	< 0.0005				0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001				0.001	< 0.001				0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005				0.0005	< 0.0005				0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				0.002	< 0.002				0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004				0.004	< 0.004				0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				0.002	< 0.002				0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				0.002	< 0.002				0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001				0.001	< 0.001				0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	0.0005				0.0005	< 0.0002				0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	0.023				0.023	< 0.005				0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	7.8				7.8	0.03				0.03	-	-
マンガン (mg/L)	0.54				0.54	< 0.01				0.01	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	0.58				0.58	0.01				0.01	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	0.50				0.50	< 0.01				0.01	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.025				0.025	0.023				0.023	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンジドイネン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料10 分析結果（地下水確認調査〔Ks2層、その2〕）

地下水確認調査												
調査地点	No. 4-2					市No. 3						
採取日	R1. 6. 25				年間平均値	R1. 6. 25				年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温（℃）	26.0					28.1						
水温（℃）	15.5					15.9						
採水水深（m）（GLより）	14.41					-						
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の汚染水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6.2				6.2	6.5				6.5	-	-
BOD (mg/L)	1.0				1.0	-				-	20mg/L	-
COD (mg/L)	0.7				0.7	-				-	40mg/L	-
SS (mg/L)	3.7				3.7	< 1.0				1.0	-	-
EC (mS/m)	18				18	110				110	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003				0.0003	-				-	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005				0.005	-				-	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08				0.08	-				-	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1				0.1	-				-	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005				0.005	-				-	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005				0.0005	< 0.0005				0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	-				-	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001				0.001	-				-	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005				0.0005	-				-	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				0.002	-				-	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004				0.004	-				-	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				0.002	-				-	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				0.002	-				-	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001				0.001	-				-	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002				0.0002	-				-	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005				0.005	-				-	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.12				0.12	-				-	-	-
マンガン (mg/L)	< 0.01				0.01	-				-	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	0.09				0.09	-				-	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	< 0.01				0.01	-				-	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.021				0.021	-				-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるこという。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンジドイネン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質（水温、pH、電気伝導度等）が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

資料11 分析結果（経堂池[中央部中層]）

		経堂池水質調査					
調査地点	中央部						
採取日	R1. 7. 8				年間平均値		
現場測定項目	中層	中層	中層	中層			
気温 (°C)	25. 5						
水温 (°C)	24. 9						
採水水深 (m) (水面より)	中層 : 0. 90 m						
		分析結果					
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	農業用水基準	水質環境基準
pH	7. 2				7. 2	6. 0~7. 5	—
BOD (mg/L)	1. 6				1. 6	—	—
COD (mg/L)	6. 6				6. 6	6mg/L	—
SS (mg/L)	5. 4				5. 4	100mg/L	—
EC (mS/m)	44				44	30mS/m	—
ひ素 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 10				0. 10	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0. 1				0. 1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005				0. 005	—	0. 01mg/L
1, 2-ジクロエチレン (mg/L)	< 0. 004				0. 004	—	—
トランス-1, 2-ジクロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	—	0. 04mg/L
トランス-1, 2-ジクロエチレン (mg/L)	< 0. 002				0. 002	—	—
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002				0. 0002	—	0. 002mg/L
1, 4-ジメチル (mg/L)	< 0. 005				0. 005	—	0. 05mg/L
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 10				0. 10	—	1pg-TEQ/L
全窒素 (mg/L)	0. 32				0. 32	1mg/L	—
アンモニア性窒素 (mg/L)	< 0. 05				0. 05	—	—
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 (mg/L)	< 0. 01				0. 01	—	10mg/L
全りん (mg/L)	< 0. 05				0. 05	—	—
りん酸態りん (mg/L)	< 0. 05				0. 05	—	—
銅 (mg/L)	< 0. 01				0. 01	0. 02mg/L	—
亜鉛 (mg/L)	< 0. 05				0. 05	0. 5mg/L	—
蒸発残留物 (mg/L)	280				280	—	—
塩化物イオン (mg/L)	10				10	—	—

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロジベンゾ「ダイキシン」)に換算した数値。

※ 採水方法 : バンドーン式採水器を用い、経堂池中央部において、水深(約2m)の中層の水を汲み上げた。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。

* 農業用水基準 : 農林水産省が学識経験者の意見も取り入れて、昭和45年3月に定めた基準で、法的拘束力はないが、水稻の正常な生育のために望ましいかんがい用水の指標として利用されている。